

さくら



令和7年9月22日(月)

祈り



我が家には、祖父母の代から続いている日々のルーティンがあります。朝起きると和室の神棚に行き、お供えしているお水を新しいものにかえ、心を落ち着けて手を合わせます。そして祈りを捧げます。ただし、祖父母からは何度も教えられました。「人の幸せを祈りなさい」

「いのり」という言葉は「い+のり」で構成されています。その語源は「生宣り(いのり)」だという説が有力です。つまり、「生きる」ということを「宣言」することです。少しでもだけ表現をすれば「今日も頑張るぞ」ということを宣言することです。祈ること、苦しいことがあっても人は積極的に生きることができるのです。

ノーベル生理学・医学賞を授業したフランス人医師のアルクシア・カル博士は、次の言葉を残しています。「祈る人たちの間には、義務と責任の感情があり、嫉妬と意地悪さは弱まり他人に対する善意が見られるのが特徴である」

余談ですが、博士のノーベル賞受賞理由は、血管縫合および血管と臓器移植に関する研究です。血管縫合の技術は、フランスのリヨンの裁縫師や刺繍職人の技術を参考にしたものであることは有名です。

また、祈りの研究で有名な宗教学者の棚次正和博士も、祈りについて次のように言っています。

「初詣に行って、一生懸命自分に良いことが起こるようにと祈る人がいるが、これはいかななものかと。祈りは神様や仏様との取り引きをするようなものではない」

人の幸せを祈り、生かされていることへの感謝の気持ちを込めて祈る。このような習慣を持つことで、私たちは心豊かな人生を歩むことができるのです。

□「祈り」に関する図書紹介

『人は何のために「祈る」のか 生命の遺伝子はその声を聴いている』

著者：村上 和夫(分子生物学者 1936年-2021年) 棚次 正和(宗教学者)

「祈りと遺伝子」というテーマを題材にした異色の著書。この本を始めて手に取ったのが2011年でした。何度読んでも新たな発見があります。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

